小笠原

編集兼発行
公益財団法人 小笠原協会
東京都港区海岸１-12-２
竹芝客船ターミナル２階
電　話 03－3432－4921
ＦＡＸ 03－3432－4487

振替貯金口座(郵便)
00190－９－64610
みずほ銀行芝支店
普通 3242428

東京都営農研修所の取組

東京都　小笠原支庁

元産業課長　境　敦史
営農研修所長　北山　朋裕
元亜熱帯農業センター研究員　小野寺　洋史

営農研修所のあゆみ

小笠原諸島の返還は昭和43年6月ですが、母島への帰島と復興は昭和47年に始まりました。東京都営農研修所（以下「営農研」）は、帰島農業者が安定した農業経営を営むために必要な基礎知識や農業技術を習得させる研修施設として、この年に母島の元地に設置されました。

設置当初の本館

当初の帰島農業者は14戸で、島内向けの野菜のほか、カボチャ、スイカ、メロンなど冬期の本土向け換金作物を中心に生産していました。多くは農業未経験者であり、ほ場（畑や果樹園などを「ほ場」といいます。）の整備も不十分で農具や資材も乏しく、多くの課題がありました。

当時の営農研は、まず農業者の実態把握のため、本土の普及活動の手法を取り入れて農家台帳を作成し、農業者ごとの作付け計画を策定するとともに、巡回指導を行いました。また、営農研の設置直後は自前の研修用ほ場が整備できていなかったため、旧小学校跡地（現在の母島小中学校体育館付近）を借り受け、当時の特産であったカボチャの共同育苗を行っていました。昭和48年になって営農研の敷地内に実証ほ場が整備されると、その年の秋には作付けが可能となり、カボチャ、ジャガイモをはじめ、果菜、葉菜類など十数種類の野菜を試作・展示し、ほ場において体験研修を行うようになりました。これらの研修では、栽培技術の修得や向上とともに、共同作業による協調性を高める人づくりに努めました。

体験研修の様子

小笠原ではその後、農地や農道、農業用水施設など農業基盤の整備が進み、また、昭和60年にはミカンコミバエ（※）の根絶により農作物を本土に出荷できるようになり、農業者も増えていきました。やがて、その農業者、あるいは後継者が小笠原農業の中核を担うようになっていきます。こうして、当初は帰島農業者のための研修施設であった営農研は、平成に入る頃には体験研修事業を終え、農業技術の普及指導が業務の中心となり、今に至ります。

※注　ミカンコミバエは果樹・野菜などに寄生する害虫で、小笠原には大正末期に侵入したとされています。寄生された農作物は本土出荷を禁止され、返還後の農業振興の大きな妨げとなっていました。そのため、根絶を目標に誘引や殺虫剤による駆除のほか、不妊虫放飼などの防除方法を用い、昭和59年に小笠原諸島からの根絶が確認され、翌年から多くの小笠原産農作物が本土に出荷できるようになりました。

令和元年度竣工の新管理棟

現在、営農研の事務所は東京都小笠原支庁母島出張所内にありますが、同じ元地地区の本館には講習室、調理実験室、書庫等があります。また、多くの農地がある評議平地区にも果樹を中心とする第一実証ほ場、野菜を中心とする第二実証ほ場があります。第二実証ほ場内には土壌診断や栽培技術の分析調査などを行う管理棟も設置されています。

令和４年度に整備した管理棟診断室

技術普及指導

営農研の日常業務の中心は技術普及指導です。まず「巡回指導」という、農業者の生産現場であるほ場を巡回し、生産物の状況を見ながら、栽培技術や営農に関する指導を行います。一方、経験豊富な農業者から教わることも多く、こうして得た小笠原の土地に即した知識や技術を、他の農業者に普及していく役割も担っています。

また、多くの農業者に情報や知識を伝えるため、「営農講習会」を定期的に開催しています。農作物の生理生態、害虫や病気の防除、施肥、農業経営、法令に関する内容のほか、ほ場の農作物を用いた剪定や接ぎ木の技術といった実技など、様々なテーマを取り扱っています。

その他、個別の相談対応、各農業者ほ場の土壌診断、各生産者組織への助言・指導、パッションフルーツやレモンの品評会における審査など、様々な形で農業者の支援を行っています。

現地実証栽培

営農研のほ場では、小笠原の農業試験研究機関で父島にある東京都小笠原亜熱帯農業センターや他地域が開発した技術の紹介、新しい品種の実証栽培を行っています。また、農業者の経験から生まれた工夫や疑問に応え、農業者に代わって様々な実証を行うための展示栽培を実施し、小笠原における技術の確立に向けて農業者と共に検討しています。こうした実証栽培については、途中経過や時には失敗例も展示しています。

実証ほ場での講習会

試験研究・その他

平成30年以降は、亜熱帯農業センターの研究員を営農研に配置し、試験研究にも取り組んでいます。現在は、基幹作物の一つであるミニトマトを中心とし、その他の農作物についても、巡回指導における農業者とのやり取りを踏まえ、亜熱帯農業センターと情報交換し、連携しながら試験研究を行っています。

また、母島における農業に関する唯一の行政機関として、農業用水施設や農道の維持管理、村の農業委員会をはじめとした各種会議への参加、農協への助言など、母島の農業者に近い立場として寄り添った支援に努めています。

小笠原農業とともに

小笠原農業は、パッションフルーツ、トマト、レモンといった基幹作物を中心に高い生産額を誇っています。また、コーヒー、カカオ、バニラ、ハチミツなど今後期待できるものも多く、更なる発展が期待されます。

営農研は昨年３月に50周年を迎えました。今後も小笠原村や小笠原アイランズ農業協同組合等と協力しながら、小笠原農業の一層の振興に向けて農業者の皆様と共に歩んでいきます。

ミニトマトの試験栽培

令和6年 北方領土返還要求全国大会開催される

「北方領土の日」の2月7日、「北方領土返還要求全国大会」が同実行委員会の主催により国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。

小笠原協会は、政府をはじめ各関係団体とともに構成団体として参加しました。

壇上正面スクリーンには「北方四島を返せ」が映され、最初に元島民の児玉事務局が北方領土を紹介。その中で、「遺されたから紡いでいく」の絵と詩の朗読がありました。

中園謙二大会実行委員長の挨拶後、岸田内閣総理大臣が挨拶し、「戦後78年が経過した今もなお、北方領土問題が解決されず、日本とロシアの間に平和条約が締結されていないことは、誠に遺憾です。ロシアによるウクライナ侵略によって日露関係は厳しい状況にありますが、政府として、領土問題を解決し、平和条約を締結するという方針を堅持してまいります。」また「北方墓参を始めとした四島交流等事業の再開は、日露関係における最優先事項の一つです。御高齢となられた元島民の方々の切実なるお気持ちに何とか応えたいとの強い思いをもって、ロシア側に対し、今は特に北方墓参に重点を置いて、事業の再開を引き続き求めてまいります。」と表明。

上川外務大臣は「北方領土問題は日露間の最大の懸案事項です。政府として北方領土問題を解決し、平和条約を締結するとの方針を堅持していく考えです。」また、「北方墓参を始めとする北方四島交流等事業の再開は、日露関係における最優先事項の一つです。私のところにも平均年齢88歳の御高齢となられた元島民の方々の切実なお気持ちが届いています。こうしたお気持ちに何とか応えたいとの強い思いをもって、ロシア側に対し、今は特に北方墓参に重点を置いて事業の再開を引き続き強く求めてまいります。

次に、「北方四島の返還を求める」と題し、運動団体代表および元島民のアピールがありました。その後、「北方領土の日に寄せて」と題し、自見北方対策担当大臣の挨拶のあと、最後にアピールを採択し、大会は終了しました。

配布資料から税庫前（歯舞群島・勇留島）岸

領土問題の解決そして平和条約の締結に向け、私自身、外務大臣としてしっかりとリーダーシップを発揮してまいります。」と述べました。

小笠原協会では、小笠原が返還された昭和43年6月に、「小笠原の返還、祖国復帰を心から喜び祝う一方、さらに沖縄及び北方領土が一日も早く祖国に復帰し、我々と同じ喜びを分かつことができるよう強力な支援を送りたい」との談話を発表しています。沖縄はその後昭和47年に復帰しましたが、北方領土は未だ返還されておりません。一刻も早く北方領土が日本に返還されるよう切望いたします。

配布資料からイネモシリ（色丹島）岸

令和6年小笠原協会新年会が4年振りに開催！

2月13日、小笠原協会の新年会が、アリス アクアガーデン田町において、小笠原関係者や公務出張中の全村会議員など70名が参加し、和やかに開催されました。

始めに主催者を代表して小笠原協会の渋井信和会長が挨拶。会長は、元日に発生した能登半島地震では未だに2万3千人もの住民が住み慣れた地を離れ避難生活を送っていることに触れ、小笠原諸島の島民6、886人が戦火を逃れて内地へ強制疎開され悲惨な避難生活を余儀なくされてから希しくも今年で80周年の節目であり、このような悲惨な歴史を風化させてはならないと述べました。

渋井会長　開会挨拶

続いて来賓挨拶に移り、始めに小笠原村の渋谷村長と村議会の池田議長、続いて今村雅弘衆議院議員、三宅正彦都議会議員、国土交通省国土政策局長、東京都小笠原・国境離島担当部長の挨拶があり、小笠原協会の鍋島特別顧問の発声で乾杯の後、なごやかな懇談となりました。

懇談の宴たけなわのなか、各団体ごとに参加者全員が紹介され、小笠原協会は顧問、評議員、理事・監事、参与、事務局職員が佐藤常務理事より紹介されました。

その後、Ｏｋｅｉこと松崎圭子さんより小笠原古謡と南洋踊りが披露され、南洋踊りでは会場の参加者も飛び入りで踊る一幕もあり会場は大いに盛り上がりました。

小笠原古謡で大盛り上がり

最後に、小笠原海運株式会社の矢田取締役執行役員の中締めの挨拶で新年会はお開きとなりました。

集合写真

なお、当紙面の写真は全て、カメラマンの渡邉英昭氏によるもの、最後に撮った全員の記念撮影では、皆さま満面の笑顔でした。

「私と小笠原」第15回

小笠原協会元事務局長　久保寺　博久

小笠原開拓のため、移住した最初の日本人と言えば、八丈島からの38人が有名ですが、八丈島からは、その後も大勢の島民が、出稼ぎ人として渡島しています。

実は私の祖父・作五郎とその子供三人（父親を含む）も父島へ渡っています。

作五郎と子供3人は、借財を精算し、財産を少しでも殖やそうと父島に渡り、バナナを栽培し、結果的には成功し、まだ未成熟の小笠原農業に於いて、開拓者の一組として活躍したと思います。

小笠原では、父も苦労したことでしょうが、八丈島で身に付けた言動に疑問符がつくこと、度々でした。

その（一）「土が無くなる」

私が、小学四、五年生の頃、畑で草取りの最中に小雨模様となり、急いだため、抜いた草に土が沢山ついたまま捨てたら、「土が無くなる」と怒られた。「土を落として捨てろ」と云われた意味は分かったつもりだったが、「土が無くなる」の言葉の意味は、小笠原にいって理解できた。

その（二）「牛が登れる坂道は、人も登れる。」

平地の少ない八丈島では、山の法面（のりめん）（傾斜地）を利用した段々畑が多い。また、炭焼きが盛んな島では、急峻な山林での仕事も多かった。しかし、炭焼きは、15年か20年の間隔で行うので、道の整備は、その都度となり、簡易な道となる。何故、「牛が登れる山道に」と言ったのか。八丈島では皆目分からなかったが、小笠原へ来たら理解できた。

小笠原の丘陵地（高くない山）に道を作る事は、大変なのだ。なだらかな坂道にすると、目的地が遠のいてしまう。必然、急峻な道になってしまう。そのため、牛が登れる道ほどの斜面にすることが、判断基準となる訳だ。

さて、私の小笠原赴任ですが、3回赴任しました。

（一）母島出張所
昭和58年6月から同60年6月

議会局管理部秘書係長から課長昇格ということで、母島出張所長を命ぜられ、赴任。

兄と姉が母島出身者と結婚していたこともあり、地元の人とはすぐ親しくなった。

また、八丈島での知人も何人か移住されており、島の生活に解け込むことができた。

電話は内地と同じように使用でき、テレビも2年目からＮＨＫが見られるようになった。

（二）小笠原支庁
平成9年6月から同11年6月

小笠原支庁長として着任した。母島着任時は、返還10周年だったが、この時は、返還30周年祭りが計画されており、平成10年6月26日に実施された。兄嫁の兄弟姉妹と、姉のご主人の兄弟が大挙して来られ、心から喜んだ。

（三）大神山公園
平成20年4月から同21年3月

東京都を定年退職後、（財）東京都公園協会で勤務していた時、同協会が指定管理者に指名された。指定管理者として私が赴任し、1年間業務を遂行した。

指定管理者の業務内容が不明なところもあったが、支庁土木課の指導を受けながら業務を遂行した。ギンネムの伐採は、近隣住民にも喜ばれた。

以上、小笠原父島、母島での想い出は私の心の財産です。

「硫黄島強制疎開80周年記念シンポジウム」の開催をおえて

明治学院大学社会学部教授、全国硫黄島島民3世の会顧問　石原　俊

2024年は、小笠原群島・硫黄列島からの強制疎開が行われて80年になります。特に硫黄島は地上戦後、米軍の秘密基地として利用され、1968年の施政権返還後は55年以上、自衛隊によって排他的に使用されています。硫黄島・北硫黄島を含む硫黄列島民が故郷に戻れない時間は、ついに80年になりました。

硫黄島地上戦開始（1945年2月19日）からほぼ79年となる2月17日午後、明治学院大学国際平和研究所（以下、「明学平和研」）と全国硫黄島島民3世の会（以下、「3世の会」）の主催、小笠原村や小笠原協会をはじめ6組織・団体の後援で、「硫黄島強制疎開80周年記念シンポジウム」を開催しました。会場の明治学院大学白金キャンパスの大教室には、硫黄島民1～4世、小笠原村関係者（村議会議員は全員参加）、東京都関係者、政府関係者を含む、120名以上もの参加者を得ました。石原はシンポジウム全体のオーガナイザーと司会を務めました。

第1部では、渋谷正昭村長の来賓挨拶の後、島民1世の奥山登喜子さんと小説家で島民3世の滝口悠生さんが講演されました。現在90歳の奥山さんは、戦前の硫黄島での生活を最も鮮明に記憶するお一人です。強制疎開時に2人の兄が軍属として島に残留させられ、地上戦で行方不明になられています。奥山さんが子どものころの硫黄島はコカ栽培の全盛期で、「コカの葉をちぎってまるめて、ピーピー鳴らした。いい音が出るんですよ。学校で習った唱歌とか吹いて楽しんでた。家に帰ったら唇が痺れて、姉にあれは麻酔薬だからダメだと怒られた」というお話が印象的でした。

滝口さんは硫黄島民の強制疎開経験を主題とする小説『水平線』（新潮社）で、織田作之助賞と芸術選奨文部科学大臣賞に輝いています。「ルーツにかかわる作品をいつかは書かねばと考えていたが、デビュー十数年でようやく形にすることができた」と回顧されました。滝口さんは島民1世の生活史インタビューを重ねている3世の会のメンバーでもありますが、作品『水平線』を念頭に、「小説家は、誰かの話を聴くように書くことが大切。小説の言葉は物語の語り手の言葉であり、読み手はその言葉を聴いている」と述べられました。

第2部では、小笠原協会を含む硫黄島（民）関係の各団体の代表者が沿革や活動を紹介された後、島民2世代表として伊藤謙一さん、3世代表として高橋淑子さんにご登壇いただきました。硫黄島帰島促進協議会の副会長でもある伊藤さんは、「80年間も帰島できないのは異常な状態だという一線は譲るべきではない」と強調されました。全国硫黄島島民の会、3世の会の両方のメンバーである高橋さんは、祖父母・ご両親と一緒に参加された、強制疎開50周年（1994年）時の硫黄島墓参の映像を流しながら、「もし硫黄島に帰ることが許されるなら亡き祖父と一緒に帰ってあげたい」と語られました。

質疑応答も活発に行われました。会場は言葉では表現できないほどの熱気に満ち、壇上から見ていても、感極まって涙を流す参加者が何人もおられることが確認できました。シンポジウムに向けての各種事前調整はかならずしも容易ではなく、3世の会と明学平和研でほぼ1年かけて準備してきましたが、開催してよかったと心から思っております。

島民4世・5世の時代になっても、1世が暮らした硫黄島の記憶を受け継ぎ、また墓参を含むさまざまな権利が軽視されることのないように、3世の会としては、後援各組織・団体とも連携しながら、活動を拡充していきたいと考えています。みなさまのいっそうのご支援のほど、お願い申し上げます。

シンポジウムのほぼ全編を、下記の明学平和研ホームページからＹｏｕＴｕｂｅ配信しています。ご視聴いただければ幸いです。（事情により予告なく配信終了する場合があるのでご注意ください）。

http://www.meijigakuin.ac.jp/~prime/events/events20240217/

2023年度 小笠原訪問交流ツアーに参加して

千葉れい子

南島にて

地球が誕生してから一度も陸続きになったことがない海洋島小笠原に、踏み入る気持ちが高まり、唯一の交通手段である定期船おがさわら丸に乗船。ドラが鳴り、岸を離れる私たちにいつまでも手を振り、その姿を見て感激しました。

大島・新島・三宅島などを見ながら、揺れもさほどなく海のホテルで一夜を過ごしました。翌朝、午前11時頃に無事二見港に着岸。その後、三日間お世話になる宿舎まで徒歩で。珍しい木々を見、ここが東京なのとびっくり。午後6時からは二見港待合所での郷土芸能鑑賞会に参加、硫黄島から参加した自衛隊の方々の踊りに、会場が一体となり、華やかな雰囲気でした。

翌日は島内見学、海洋センターでのカメへの餌やりや、一頭のカメに頭が二つあったのには、きれいな海でもこのようなことが起きているのかと驚きました。海上自衛隊父島分遣隊も訪問、人命救助が第一とのこと、私がお聞きした方は、経理担当の隊員さんでした。

念願だった中山峠に登り、頂上から見た小港海岸の景色が最高で登って本当によかった。南島では岩場がきついところもありましたが、ゆっくり見学しました。何とエメラルドグリーンの海に白砂、色とりどりの魚、すぐ水着にと

気持ちがはやりましたが、時間がないとのこと、靴を脱いで海に入り水かけ遊びで我慢、でも楽しかったなー。

大神山神社の神輿巡行では、賑やかなお囃子の中を男女が交代で担ぎ、担当者らしい人が、「担いでみなさい」と私の手を引っ張って担がせてくれました。最初の夜に訪れた「ラドフォード」のママ、川越里枝さんが、私を見つけてタッチしてくれたのもうれしい思い出です。

さて、ナイトツアーでは小笠原オオコウモリが二匹、枝にぶら下がって、さらに近くのもう一匹までしっかりと見え、鳴き声も確認。そして、光るキノコのグリーンペペ、まるで蛍が飛んでいるようです。国立天文台アンテナのライトアップも見事で、突然グアーと動き出したときはびっくり。満天の星空には、天の川、白鳥座、カシオペア座、そしてスバル、これだけの星を見られたのは初めてです。さすが小笠原の空だ！と感動しました。白い鮫も船着き場に姿を現すというおまけ付きでした。

大村海岸でサンゴダストを踏み、小笠原高校では島の人たちの野球試合を応援、最後に、奥村の大平京子さんのお宅を訪問しました。娘のジャネットさんが欧米系島民の歴史を話してくれました。終戦とともに日本兵たちは慌ただしく去っていきましたが、残された服のポケットから見つかった金貨も見せていただきました。返還で英語から日本語に代わった教育、小笠原出身者という理由なき劣等意識に苦しんだこと。「どんな時でも前を見てと自分に言い聞かせて、今の自分がある」と話す。内地では、英語の教育やインストラクターとして元気に活躍されているとのことです。人間としても素晴らしく、またお会いしたい方でした。

宿舎前で記念写真

小笠原協会の渋井信和会長他役員の皆様のおかげで、私たちはこの旅行で多くのものを学びました、本当にありがとうございました。

2024年（令和6年）度
「第24回小笠原訪問並びに交流ツアー」
今年も開催します!!

- 実施期間　10月31日（木）から11月5日（火）
- 参加対象　旧島民及び賛助会員、小笠原を愛する皆様

詳細は、次号7月1日付本機関紙に掲載予定

イーデス（大平京子）さんを偲んで

元小笠原村総務課長　セーボレー孝

大村尋常高等小学校の生徒らが綴った文集「なでしこ」に、イーデス・ワシントンと自署の作文が載っている。

イーデスさんが昭和初期の平和な時代に、本土から移住の同級生らと仲良く、楽しい学生生活を過ごしていた様子がうかがえる。しかし卒業の4年後に戦争の様相が高まり、イーデスさんは大平京子に改名を強いられた。

21歳で本土へ疎開して約2年間の苦境に耐えたのち、米軍統治下の故郷に戻り、再びイーデス・ワシントンとして暮らしながら、帰島が叶わなかった同級生らとの再会を待ちわびた。

46歳の時に返還のニュースを聞いたイーデスさんは、あまりの嬉しさに「返還の歌」を作った。24年の歳月を経て桟橋に降り立った同級生らと島民が抱き合う歓喜に溢れた情景に、私は子供ながら心が弾んだ。

大正10年に生まれたイーデスさんは、昭和、平成そして令和に至る四つの時代を生き、昨年12月3日に「太陽の郷」で娘ジャネットさんに看取られ、102歳で神のもとに召された。「聖ジョージ教会」ではイーデスさんが島で唄い広めた「レモン林」を唄い、南洋踊りで見送った。

どんな時代であれ、イーデスさんは欧米系島民として背負って来た歴史と先祖が育んだ文化を大切にし、若い世代との交流も楽しみながら唄い、語り継いで来られた。小笠原を愛し、多くの人に好かれて生きたその軌跡は、小笠原の宝として後世に語り継がれるだろう。

小笠原DAY vol.9 大盛況の開催 1700人が来場

3月3日竹芝客船ターミナルにおいて、小笠原村観光局主催の「小笠原DAY」が開催されました。

このイベントは、小笠原好きや元島民、島民、さらに、小笠原に行ってみたいと思っている人たちが一堂に会し、本土に居ながら小笠原を身近に感じ、再会や新たな出会いを楽しんでいただくことを目的に、2013年より年に1回、小笠原ファンの祭典として開催されてきました。しかし、2020年以降は、コロナ渦により開催が見送られ、今回、4年ぶりに復活しました。

当日は、小笠原アンバサダー（小笠原の魅力を発信していただける方々）をはじめとする多くのボランティアスタッフにより運営され、まさに小笠原ファンによる小笠原ファンのための祭典となりました。

イベントは、島民や小笠原で出会った仲間との再会、小笠原の食材を使ったおもてなし、おがさわら丸直送島野菜の即売会、豪華商品が当たるゲーム大会、小笠原関係アーティストのライブステージ、小笠原特産品の販売など盛り沢山の内容で、参加者の笑顔が絶えない一日でした。

東京都、小笠原村等とともに、後援団体でもある当小笠原協会は、「強制疎開80周年」をテーマにパネル展示で参加しました。昨年は、小笠原諸島返還55周年という記念すべき年であり、今年は、1944年（昭和19年）に小笠原諸島の島民が、戦争の惨禍を避けるために、内地へ強制疎開させられてから80周年という節目の年でもあることから、故郷小笠原への帰島・返還運動の歩み、強制疎開の歴史や内地の疎開先での厳しい生活と望郷の想いなどを紹介しました。多くの皆さんが足を止めて観覧して下さり、小笠原の歴史に思いをはせ、ますます豊かで平和な島となるよう願う機会とすることができました。

多くのボランティアスタッフにより大成功

小笠原協会受付ブース

母島だより　坂入祐子

母島の神社

母島には神社が3ヶ所あります。ひとつは北村にある大神宮。戦前は約600人（昭和19年）が住む北村でしたが強制疎開により無人となり今では大神宮に行く道はガジュマルに覆われて行くことはできません。

もうひとつは御嶽神社。集落から南に延びている坂道を少し上った石次郎海岸の斜め向かいの高台にある農業の神様です。戦前、農業に尽力された方が建立したと言われています。毎年10月10日前後に農業者によって例大祭が行われます。

3つめは船客待合所の裏手の高台にある月ヶ岡神社です。大正元年（1912年）に建立され、毎年盛大な例大祭が行われていたそうです。朝から太鼓の音が村中に響き、昼間は境内で奉納相撲が行われ、夜は奉納芝居が演じられました。奉納相撲は盛大で、今の学校の裏あたりから相撲甚句と共に緞子の化粧まわしをした相撲を取る男の人たちが相撲踊りをしながら神社までゆっくりと歩いて向かったそうです。

強制疎開により神社の御神体は内地に移され、返還後の昭和55年に建て直された神社に遷座されました。令和元年の台風で社が崩壊してしまい、島民や関係者の寄付で令和4年に修復が完成しましたがコロナの流行により例大祭はしばらく実施されず、七五三のお祓いだけとなりました。

令和５年母島例大祭での神輿

毎年11月23日に行われる例大祭は母島のイベントのひとつで皆楽しみにしています。

令和5年に4年ぶりに例大祭が行われました。父島から来て下さった神主さんから七五三の子供達とお宮参りの赤ちゃんがお祓いを受け、その後山車と子供神輿に次いで大人神輿が集落を周ります。夜は境内に島民による出店が出て、舞台では南洋踊りや歌自慢によるカラオケなどが演じられ、小笠原太鼓が響く夜空の下、境内に敷き詰められたシートに座り皆、お祭りを楽しみました。

〈参考資料〉
小笠原諸島の自立的発展に向けた歴史・文化探訪観光開発基礎調査
柘植ユキ「孤島故郷に生きて」小笠原協会創立50周年史

小笠原産・特産物 パッションフルーツのご紹介

いつも小笠原の農産物をご愛顧いただき誠にありがとうございます。

今年も島の農家が丹精込めてつくったパッションフルーツの出荷がはじまりました。

小笠原のパッションフルーツは太陽を燦々と浴びているため香りが強く、濃い甘みが特徴です。

また、ビタミンAや葉酸が豊富なので、妊婦さんや美容と健康に気を使う方にもおすすめです。

皆様には現地直売価格でご案内させていただきますので、ぜひこの機会に島の太陽と自然の恵みをお召し上がり下さい。

（お問い合わせ先）
小笠原アイランズ農協　母島支店
電話 04998-3-2331
FAX 04998-3-2345

品目	規格	入個数	税込価格（送料別）
小箱	中玉 0.9kg 相当	12～13 玉	2,600 円
中箱	大玉 1.45kg 相当	16～19 玉	4,300 円
大箱	大玉 2.4kg 相当	28～30 玉	6,900 円
特級大箱	特大玉 2.5kg 相当	25 玉	7,900 円

※別途送料がかかります。詳細はお問い合わせ願います。

皆様ありがとうございました

～令和5年12月1日から令和6年2月29日まで

▼個人賛助会費

▽一口
塩谷　好広　永阪　彰
岩本　園子　長倉　正治
加藤　春美　川手　善昭
小野　正太　山田　紫織
渡邉　啓二　岩本　陽児
玉井由紀則　鈴木　雄司
小熊　ミサ　鈴木　恒太

▼新規入会者

▽一口
小山　芳治　小山　幸子
平林　卓　志村　智英
藤井　郁代　小山　時生
坂下　冴子　関山　昇
関山　直子　奥山　芳徳
深井　智之　金田　佳枝
加藤　晴美　荒井千恵子
岡　さやか　清水　大誠
高橋　巧　中澤　雅人
田村　公明　田村　友香
大谷木　力　佐宗　晋治
遠藤　亮　櫻田　高代
藤井　省五　佐藤　康平
小熊　靖将　小熊　智代
黒澤　彩夏　中谷　寛
山本　将也　平野　正浩
小野木健雄　金指　暁彦
金指なおみ　宗宮　眞
矢嶋みゆき　眞砂　直樹
山岸　輝和　伊丹　正直
土屋友香理　山田　恭子
宮城ジャイアン
伊豆野　誠　齋藤　洋
三枝　暉　梅澤理佐子
相川　琢眞　横谷　晃治

▼法人賛助会費

▽五十口（三十万円）
硫黄島産業株式会社

▼寄付金

▽令和六年新年号広告
七島信用組合小笠原支店
杉田建設株式会社
株式会社共勝丸
株式会社東京エイドセンター
日章建設株式会社
一般財団法人東京都弘済会
小笠原商事有限会社
社会福祉法人東京福祉会
有限会社フローラ
日本自動車ターミナル株式会社
五洋建設株式会社
司法書士玉井事務所
株式会社品川建設
小笠原海運株式会社
環境保全株式会社
大成建設株式会社
鹿島建設株式会社
▽令和五年度特集号広告
杉田建設株式会社
株式会社共勝丸
金指　暁彦
宗宮　眞
眞砂　直樹
伊丹　正直
山田　恭子
株式会社東京エイドセンター
日章建設株式会社
一般財団法人東京都弘済会
株式会社ナショナルランド
社会福祉法人東京福祉会
有限会社フローラ
株式会社ドラムエンジニアリング
小笠原母島漁業協同組合
日本自動車ターミナル株式会社
五洋建設株式会社
小笠原島漁業協同組合
小笠原海運株式会社
環境保全株式会社
大成建設株式会社
▽個人寄付
斉藤　利光（二千二十円）
千葉れい子（三千円）
金児久美子（一万円）

敬称は略させていただきます。万が一、未掲載の失礼がありましたら次号掲載しますのでご一報ください（掲載順不同）

令和６年２月気象状況 （　）内は前年同月（父島）	
最高気温	24.3 ℃（23.4 ℃）
最低気温	14.7 ℃（12.4 ℃）
平均気温	19.9 ℃（18.7 ℃）
平均湿度	76 %（74 %）
月降水量	71.0 mm（96.5 mm）
（気象庁　ホームページ）	

令和６年３月１日現在 （　）内は前年同月	
住民基本台帳登録者数	
○世　帯	1,523 世帯（1,508 世帯）
父　島	1,255 世帯（1,240 世帯）
母　島	268 世帯（265 世帯）
○人　口	2,597 人（2,580 人）
父　島	2,145 人（2,132 人）
母　島	452 人（448 人）

令和６年２月中の来島者数 （　）内は前年同月（父島）	
定期船	2,090 人（1,833 人）
観光船	0 人（280 人）

小笠原のファンを増やそう　小笠原協会賛助会員ご加入のお願い

賛助会員の皆様には、大変お世話になっております。当協会は、小笠原諸島の旧島民の方々の帰島支援や機関紙等の発行、交流ツアー開催、イベント出展などにより広く全国の皆様の小笠原諸島へのご理解を求め、小笠原村の振興支援の活動を進めています。これらの活動は賛助会員の皆様方の会費収入に支えられており、深く感謝申し上げますとともに、引続きのご支援をお願いします。

また、新たな皆様にも、小笠原ファンづくりと協会の活動の趣旨をご理解いただき、賛助会員へのご入会をお願いしています。

小笠原を愛する方、興味をお持ちの方、ご家族、ご友人など身近な方々に賛助会員へのお誘いを切にお願い申し上げます。

入会は、インターネットで当協会HPのトップ画面から「賛助会員申し込み」→「会員申し込みはこちら」をご覧ください。（http://www.ogasawarak.org/）電話（03―3432―4921）でのお問い合わせやお申込みも行っております。（入会申込書の送付も可能）

スマホからも入力できます。

入会申込みコチラから

令和６年度賛助会員更新手続きについて

現在、更新手続きのお知らせをお送りしています。

引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

なお、住所等が変更されてお知らせが届かない場合は、お手数をお掛けしますが、協会へご連絡をお願いいたします。

なお、5月の乗船割引を受けられる方は、早めのお手続きをお願いします。

おがさわら丸の割引証明

賛助会員の方は、「おがさわら丸」の乗船割引が受けられます（2等、特2等）。

割引の詳細は協会のホームページ等でご確認ください。

「おがさわら丸」ご利用の際の割引証明の手続きは、小笠原海運での乗船予約をされる際に、小笠原海運へ賛助会員証の写しをファックス、郵送または、メールに添付してお送りください。

ご注意

賛助会員として、おがさわら丸の乗船割引を受ける際のご注意事項

①ご乗船の2週間以上前までに賛助会員の手続きを済ませてください。

②小笠原協会の賛助会員証の発行には、賛助会員であること及び当該年度の賛助会費が納入されていることが条件になります。

旧島民及び関係者（ご子孫、配偶者等）の方々へ

また、旧島民及び関係者（ご子孫、配偶者等）の方は、「おがさわら丸」の割引対象です。割引証明をご希望の方は、小笠原協会にお電話ください。

小笠原協会役員会開催

3月に定例理事会を開催し、令和6年度の事業計画並びに収支予算が決定されました。

なお、5月に定例理事会、6月に定時評議員会を開催し、令和5年度の事業報告並びに収支決算報告を予定しております。

特集号68号のお詫びと訂正について

令和5年12月発行の特集号68号につきまして以下のとおり訂正します。

P44　上から15行目
（誤）八丈島役場
（正）八丈町役場

P45　下から7行目
（誤）南硫黄島でも。
（正）削除

訃報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

安藤　光一　様　84歳
令和6年3月14日ご逝去
元小笠原村長

菊池　昭子（てるこ）　様　96歳
令和5年12月17日ご逝去
硫黄島出身

小笠原航路時刻表

（令和6年4月～令和6年8月）

ハートロック（千尋岩）

運航月 時　刻	東京発 11:00	父島着 11:00	父島泊 —	父島泊 —	父島発 15:00	東京着 15:00	父島泊数
4月	2（火）	3（水）	4（木）	5（金）	6（土）	7（日）	3泊
	9（火）	10（水）	11（木）	12（金）	13（土）	14（日）	
	15（月）	16（火）	17（水）	18（木）	19（金）	20（土）	
	21（日）	22（月）	23（火）	24（水）	25（木）	26（金）	
	東京発	父島着	父島泊	父島泊	父島発	東京着	父島泊数
	11:00	11:00	—	—	15:30	15:30	
	27（土）	28（日）	—	—	28（日）	29（月）	父島折り返し
5月	1（水）	2（木）	—	—	2（木）	3（金）	父島折り返し
	4（土）	5（日）	—	—	5（日）	6（月）	
	東京発	父島着	父島泊	父島泊	父島発	東京着	父島泊数
	11:00	11:00	—	—	15:00	15:00	
	8（水）	9（木）	—	—	9（木）	10（金）	父島折り返し
	東京発	父島着	父島泊	父島泊	父島発	東京着	父島泊数
	10:00	15:00	—	—	10:30	15:30	
	※1 21（火）	22（水）	—	—	23（木）	※1 24（金）	1泊
	東京発	父島着	父島泊	父島泊	父島発	東京着	父島泊数
	11:00	11:00	—	—	15:00	15:00	
	28（火）	29（水）	—	—	30（木）	31（金）	1泊
6月	2（日）	3（月）	4（火）	5（水）	6（木）	7（金）	3泊
	8（土）	9（日）	10（月）	11（火）	12（水）	13（木）	
	14（金）	15（土）	16（日）	17（月）	18（火）	19（水）	
	東京発	父島着	父島泊	父島泊	父島発	東京着	父島泊数
	10:00	10:40	—	—	15:00	15:40	
	※2 20（木）	21（金）	22（土）	23（日）	24（月）	※2 25（火）	3泊
	東京発	父島着	父島泊	父島泊	父島発	東京着	父島泊数
	11:00	11:00	—	—	15:00	15:00	
	26（水）	27（木）	28（金）	29（土）	30（日）	7/1（月）	3泊
7月	3（水）	4（木）	5（金）	6（土）	7（日）	8（月）	3泊
	10（水）	11（木）	12（金）	13（土）	14（日）	15（月）	
	東京発	父島着	父島泊	父島泊	父島発	東京着	父島泊数
	11:00	11:00	—	—	15:30	15:30	
	16（火）	17（水）	—	—	17（水）	18（木）	父島折り返し
	19（金）	20（土）	—	—	20（土）	21（日）	
	23（火）	24（水）	—	—	24（水）	25（木）	
	26（金）	27（土）	—	—	27（土）	28（日）	
	30（火）	31（水）	—	—	31（水）	8/1（木）	
8月	2（金）	3（土）	—	—	3（土）	4（日）	父島折り返し
	6（火）	7（水）	—	—	7（水）	8（木）	
	9（金）	10（土）	—	—	10（土）	11（日）	
	13（火）	14（水）	—	—	14（水）	15（木）	
	16（金）	17（土）	—	—	17（土）	18（日）	
	20（火）	21（水）	—	—	21（水）	22（木）	
	23（金）	24（土）	—	—	24（土）	25（日）	
	東京発	父島着	父島泊	父島泊	父島発	東京着	父島泊数
	11:00	11:00	—	—	15:00	15:00	
	27（火）	28（水）	29（木）	30（金）	31（土）	9/1（日）	3泊

※1　さるびあ丸による運航（予定）　※2　八丈島寄港
◆時刻表は今後の状況により変更となる場合もあります
◎問い合わせ先　小笠原海運株式会社　☎ 03-3451-5171

さあ！母島へ行こう

母島への航路（ホエールライン）（令和6年4月～令和6年8月）

母島は父島の南約50kmに位置しその広さは約21k㎡です。
島の中央に乳房山（463m）があり島の周囲は58kmあります。
母島を観光される方は、下記の時刻表でぜひ訪島してください。

母島沖港

運航月 時　刻	おがさわら丸 父島入港日		おがさわら丸 父島入港の翌日	おがさわら丸 父島出港日	おがさわら丸 父島入出港日	その他の日			運休日	
運航時刻 父島出港	12:00	12:00		7:30	7:30（7:30） / 14:00（13:30）	7:30				
母島入港	↓ 14:00	↓ 14:00		↓ 9:30	↓ 9:30（9:30） / 16:00（15:30）	↓ 9:30				
母島出港		15:00	14:00（15:00）	12:00	10:00（10:30） / （16:00）	14:00				
父島入港		↓ 17:00	↓ 16:00（17:00）	↓ 14:00	↓ 12:00（12:30） / （18:00）	↓ 16:00				
運航月日 4月	3（水） 10（水） 16（火） 22（月）		4（木） 11（木） 17（水） 23（火） 29（月）は（　）の時間	6（土） 13（土） 19（金） 25（木）	28（日）	2（火） 8（月） 15（月） 21（日） 27（土）	5（金） 9（火） 18（木） 24（水） 30（火）	12（金）	1（月） 7（日） 14（日） 20（土） 26（金）	
5月	22（水）は父島発7：30・16：00 母島着9：30・18：00 母島発12：00 父島着14：00	29（水）	6（月）は（　）の時間	23（木）は母島発7：30 父島着9：30 30（木）	2（木）、9（木）は（　）の時間 5（日）	1（水） 7（火） 13（月） 19（日） 25（土）	4（土） 8（水） 15（水） 21（火） 27（月）	11（土） 17（金） 28（火）	3（金） 10（金） 14（火） 18（土） 24（金） 31（金）	12（日） 16（木） 20（月） 26（日）
6月	3（月） 9（日） 15（土） 21（金） 27（木）		4（火） 10（月） 16（日） 22（土） 28（金）	6（木） 12（水） 18（火） 24（月） 30（日）		1（土） 8（土） 17（月） 23（日） 29（土）	2（日） 11（火） 20（木） 26（水）	5（水） 14（金）	7（金） 13（木） 19（水） 25（火）	
7月	4（木） 11（木）		5（金） 12（金） 18（木）、25（木）は（　）の時間	7（日） 14（日）	17（水） 24（水） 31（水） 20（土）、27（土）は（　）の時間	2（火） 9（火） 16（火） 23（火） 30（火）	3（水） 10（水） 19（金） 26（金）	6（土） 13（土） 22（月） 29（月）	1（月） 15（月） 21（日） 28（日）	8（月）
8月	28（水）		1（木）、8（木）、15（木）、22（木）は（　）の時間 29（木）	31（土）	3（土）、10（土）、17（土）、24（土）は（　）の時間 7（水） 14（水） 21（水）	2（金） 9（金） 16（金） 23（金） 30（金）	5（月） 12（月） 19（月） 26（月）	6（火） 13（火） 20（火） 27（火）	4（日） 11（日） 18（日） 25（日）	

◆時刻表は今後の状況により変更となる場合もあります
◎問い合わせ先　伊豆諸島開発株式会社　☎03-3455-3090

紺青の海　透ける空　緑の森　帰ろう　心の故郷・小笠原